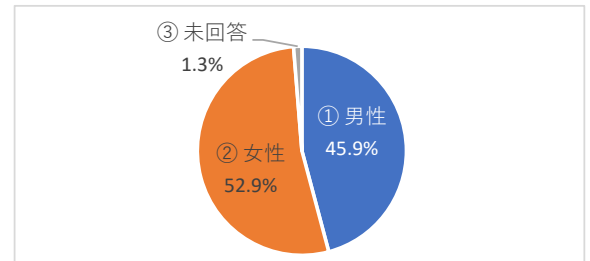


令和7年度 鹿屋市市政モニター 第4回アンケート集計

- テーマ：認知症について
- 調査期間：令和8年1月28日（水）～令和8年2月23日（月）
- 回収結果：送付数200人（市内177人）、回答数157人、回答率78.5%

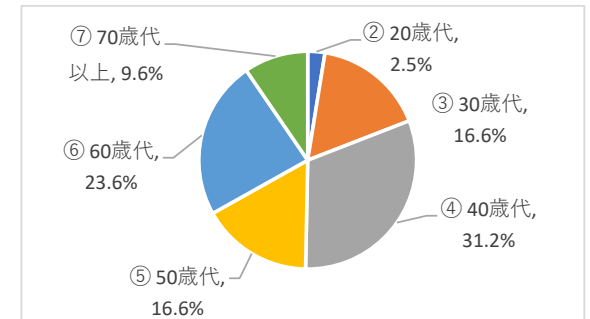
あなたの性別について

回 答		件数	割合
①	男性	72	45.9%
②	女性	83	52.9%
③	未回答	2	1.3%
合 計		157	100.0%



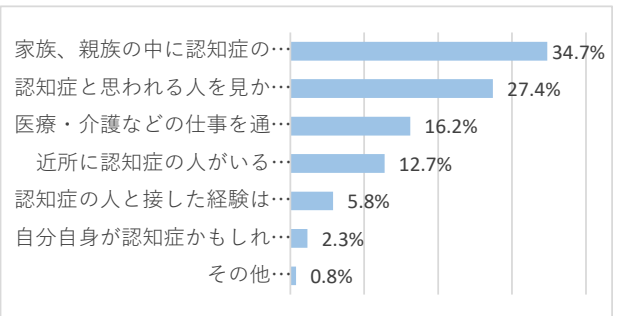
あなたの年齢について

回 答		件数	割合
①	10歳代	0	0.0%
②	20歳代	4	2.5%
③	30歳代	26	16.6%
④	40歳代	49	31.2%
⑤	50歳代	26	16.6%
⑥	60歳代	37	23.6%
⑦	70歳代以上	15	9.6%
合 計		157	100.0%



問1 認知症に関する経験として、あてはまるものを教えてください。（あてはまるものすべてにチェック）

回 答		件数	割合
①	家族、親族の中に認知症の人がいる（いた）	90	34.7%
②	認知症と思われる人を見かけたことがある	71	27.4%
③	医療・介護などの仕事を通じて認知症の人と接している（接したことがある）	42	16.2%
④	近所に認知症の人がいる（いた）	33	12.7%
⑤	認知症の人と接した経験はない	15	5.8%
⑥	自分自身が認知症かもしれないと思ったことがある	6	2.3%
⑦	その他	2	0.8%
合 計		259	100.0%

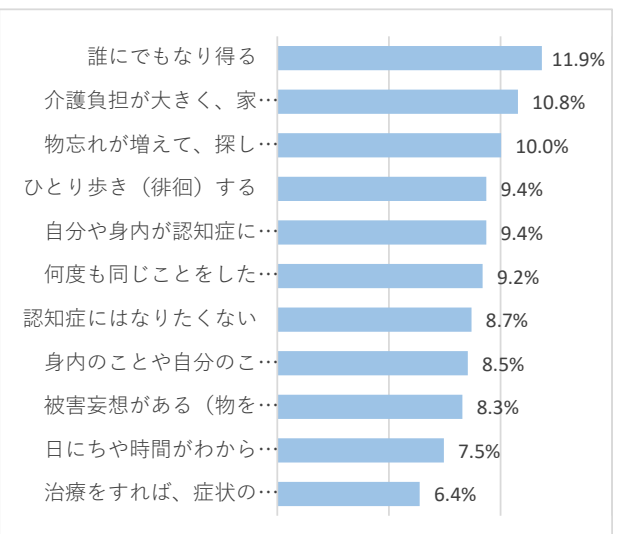


その他の意見

・ 認知症かもしれない親族がいる
・ 認知症と思われる人とは仕事を通じて接する機会がある

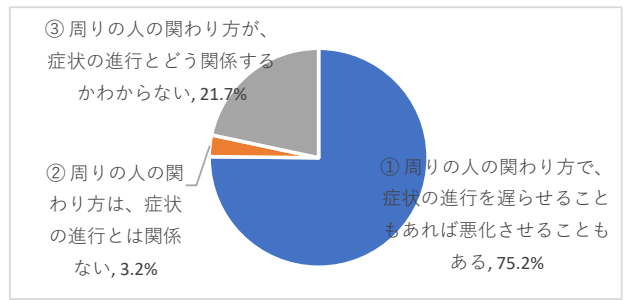
問2 「認知症」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか。（あてはまるものすべてにチェック）

回 答		件数	割合
①	誰にでもなり得る	143	11.9%
②	介護負担が大きく、家族が大変になる	130	10.8%
③	物忘れが増えて、探し物が多くなる	121	10.0%
④	ひとり歩き（徘徊）する	113	9.4%
⑤	自分や身内が認知症になったらと思うと不安を感じる	113	9.4%
⑥	何度も同じことをしたり、聞いたりする	111	9.2%
⑦	認知症にはなりたくない	105	8.7%
⑧	身内のことや自分のことがわからなくなる	103	8.5%
⑨	被害妄想がある（物を盗られたなど）	100	8.3%
⑩	日にちや時間がわからなくなる	90	7.5%
⑪	治療をすれば、症状の進行を遅らせることができる	77	6.4%
⑫	認知症と聞いても特に思い浮かぶことはない	0	0.0%
⑬	その他	0	0.0%
合 計		1,206	100.0%



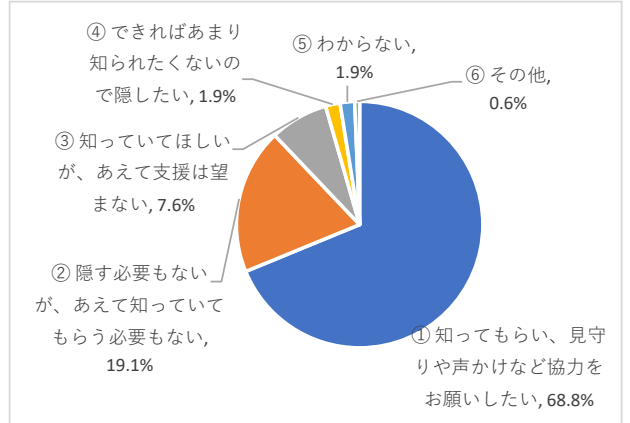
問3 認知症の人と周りの人との関わり方のイメージについて教えてください。

回答	件数	割合
① 周りの人の関わり方で、症状の進行を遅らせることもあれば悪化させることもある	118	75.2%
② 周りの人の関わり方は、症状の進行とは関係ない	5	3.2%
③ 周りの人の関わり方が、症状の進行とどう関係するか分からない	34	21.7%
合計	157	100.0%



問4 もし、あなたの家族が認知症になったら、そのことを近所の人に知ってもらおうと思いますか。

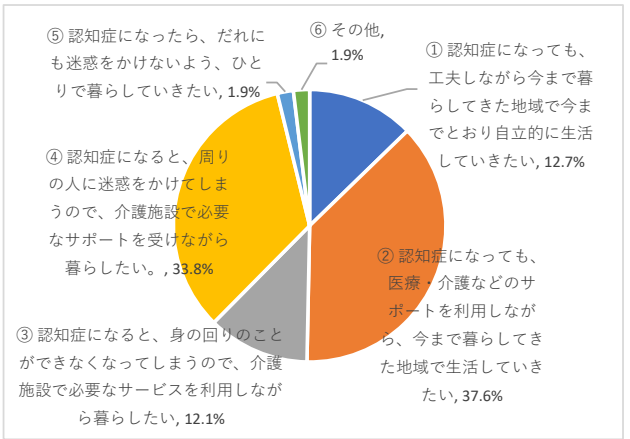
回答	件数	割合
① 知ってもらい、見守りや声かけなど協力をお願いしたい	108	68.8%
② 隠す必要もないが、あえて知ってもらわなくてもいい	30	19.1%
③ 知っていてほしいが、あえて支援は望まない	12	7.6%
④ できればあまり知られたくないので隠したい	3	1.9%
⑤ わからない	3	1.9%
⑥ その他	1	0.6%
合計	157	100.0%



その他の意見
・症状の程度次第。徘徊などある場合は近所の人にも協力してもらわなければならない

問5 あなたが認知症になったらどのように暮らしていきたいですか。

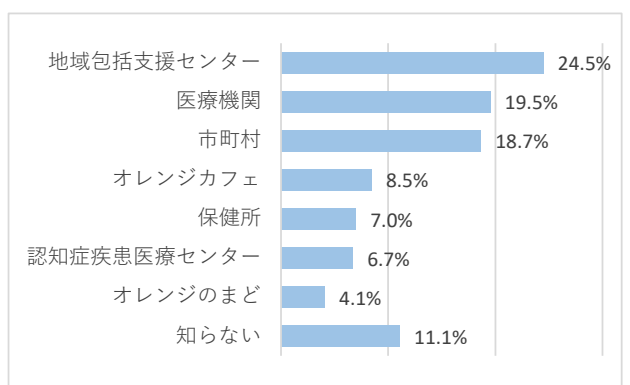
回答	件数	割合
① 認知症になっても、工夫しながら今まで暮らしてきた地域で今までとおり自立的に生活していきたい	20	12.7%
② 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	59	37.6%
③ 認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサービスを利用しながら暮らしたい	19	12.1%
④ 認知症になると、周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設で必要なサポートを受けながら暮らしたい。	53	33.8%
⑤ 認知症になったら、だれにも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい	3	1.9%
⑥ その他	3	1.9%
合計	157	100.0%



その他の意見
・できれば工夫を凝らして今まで通りの生活ができるようにしたいと思いますが、認知症の症状や進行具合で、家族や周りに迷惑をかけるなら、しかるべき施設などにお世話になるべきなのかなと感じます。
・軽度なら支援を受けながら自宅で暮らしたいが、重度で対外的に迷惑をかけるなら介護施設で暮らさざるを得ない
・現実的では無いが、安楽死を選べるなら死を選びたい。

問6 あなたは認知症の相談窓口を知っていますか。知っている場合、どの相談窓口を知っていますか。（あてはまるものすべてにチェック）

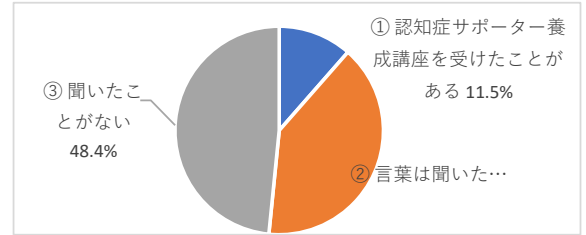
回答	件数	割合
① 地域包括支援センター	84	24.5%
② 医療機関	67	19.5%
③ 市町村	64	18.7%
④ オレンジカフェ	29	8.5%
⑤ 保健所	24	7.0%
⑥ 認知症疾患医療センター	23	6.7%
⑦ オレンジのまど	14	4.1%
⑧ 知らない	38	11.1%
⑨ その他	0	0.0%
合計	343	100.0%



問7 「認知症サポーター」を知っていますか。

※認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分にできる範囲で手助けをする応援者のことです。
市町村や職域などで開催される「認知症サポーター養成講座」を受講する必要があります。

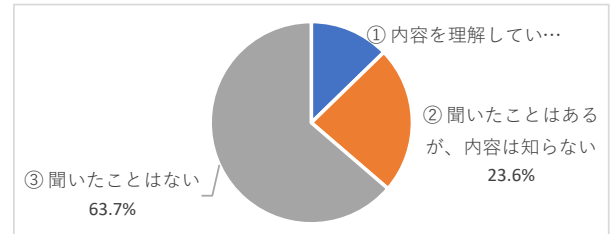
回	答	件数	割合
①	認知症サポーター養成講座を受けたことがある	18	11.5%
②	言葉は聞いたことはある	63	40.1%
③	聞いたことがない	76	48.4%
合計		157	100.0%



問8 「認知症基本法」「新しい認知症観」について知っていますか。

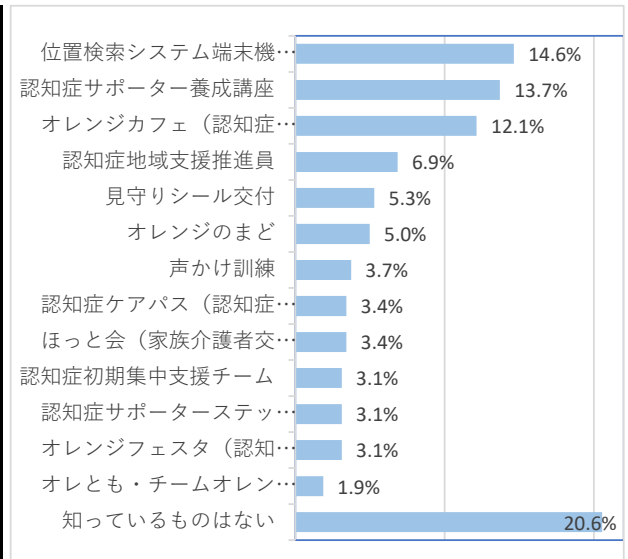
※新しい認知症観とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、一人ひとりが個人としてできることやりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考えです。

回	答	件数	割合
①	内容を理解している	20	12.7%
②	聞いたことはあるが、内容は知らない	37	23.6%
③	聞いたことはない	100	63.7%
合計		157	100.0%



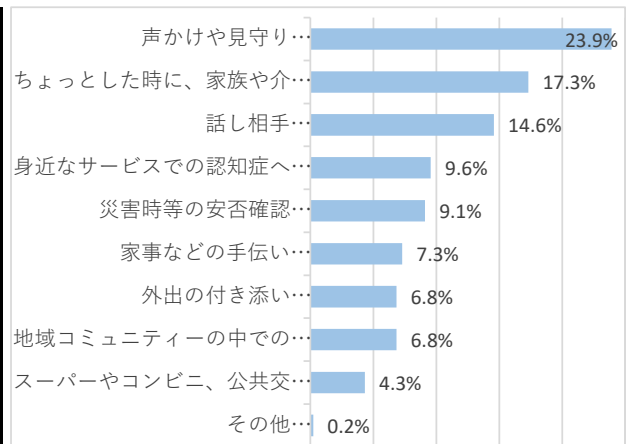
問9 認知症に関する取り組みの中で、知っているもの、聞いたことがあるものを教えてください。（あてはまるものすべてにチェック）

回	答	件数	割合
①	位置検索システム端末機貸与	47	14.6%
②	認知症サポーター養成講座	44	13.7%
③	オレンジカフェ（認知症カフェ）	39	12.1%
④	認知症地域支援推進員	22	6.9%
⑤	見守りシール交付	17	5.3%
⑥	オレンジのまど	16	5.0%
⑦	声かけ訓練	12	3.7%
⑧	認知症ケアパス（認知症に関するガイドブック）	11	3.4%
⑨	ほっと会（家族介護者交流会）	11	3.4%
⑩	認知症初期集中支援チーム	10	3.1%
⑪	認知症サポーターステップアップ講座	10	3.1%
⑫	オレンジフェスタ（認知症啓発イベント）	10	3.1%
⑬	オレとも・チームオレンジ活動	6	1.9%
⑭	知っているものはない	66	20.6%
⑮	その他	0	0.0%
合計		321	100.0%



問10 認知症の人が地域での生活を続けられるよう、地域の支えとして必要だと思うものを教えてください（3つまでチェック）

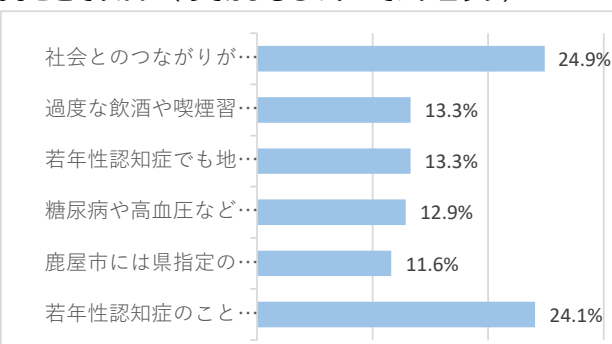
回	答	件数	割合
①	声かけや見守り	105	23.9%
②	ちょっとした時に、家族や介護者の代わりに本人を見守りしてくれる人や制度	76	17.3%
③	話し相手	64	14.6%
④	身近なサービスでの認知症への理解	42	9.6%
⑤	災害時等の安否確認	40	9.1%
⑥	家事などの手伝い	32	7.3%
⑦	外出の付き添い	30	6.8%
⑧	地域コミュニティの中での居場所	30	6.8%
⑨	スーパーやコンビニ、公共交通機関など	19	4.3%
⑩	その他	1	0.2%
合計		439	100.0%



その他の意見
・認知症家族の相談窓口と家族への支援

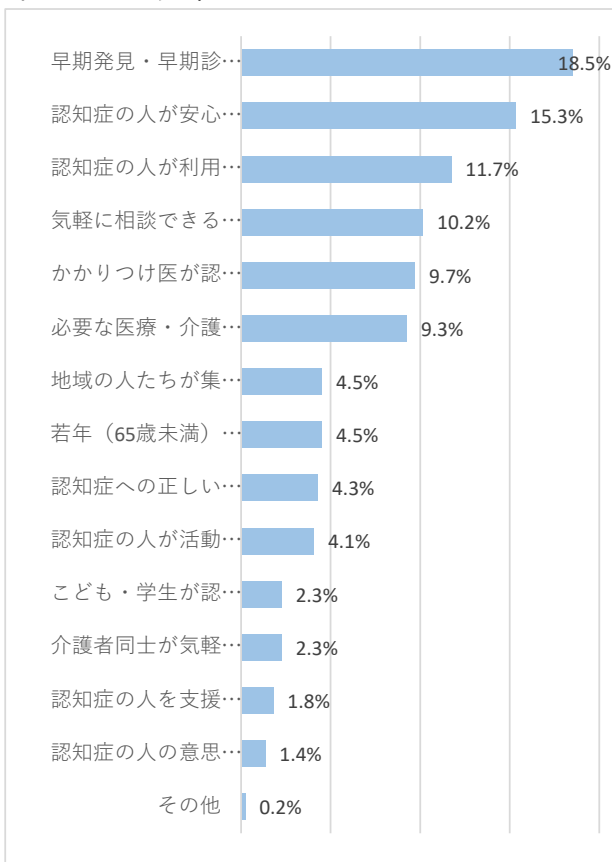
問11 「若年性認知症（65歳未満で発症する認知症）」について知っていることはどんなことですか。（あてはまるものすべてにチェック）

回	答	件数	割合
①	社会とのつながりが乏しく孤立しがちな人がなりやすい	60	24.9%
②	過度な飲酒や喫煙習慣がある人がなりやすい	32	13.3%
③	若年性認知症でも地域包括支援センターがサポートできる	32	13.3%
④	糖尿病や高血圧などの生活習慣病がある人がなりやすい	31	12.9%
⑤	鹿屋市には県指定の専門医（認知症疾患医療センター）があり、早期診断、早期対応が非常に大切である	28	11.6%
⑥	若年性認知症のことを知らない	58	24.1%
合計		241	100.0%



問12 認知症に関する取り組みについて、今後強化してほしいことを教えてください。（3つまでチェック）

回	答	件数	割合
①	早期発見・早期診断のためのしくみづくり	82	18.5%
②	認知症の人が安心安全に暮らせる体制整備の充実（ひとり歩き（徘徊）した時に、位置情報が検索できる機器など）	68	15.3%
③	認知症の人が利用できる介護施設・人材確保	52	11.7%
④	気軽に相談できる体制の構築	45	10.2%
⑤	かかりつけ医が認知症の治療もできるようにしてほしい	43	9.7%
⑥	必要な医療・介護を受けることができる体制の整備	41	9.3%
⑦	地域の人たちが集える憩いの場（お茶を飲んだり体操をするなど）や身近で定期的に交流できる場所の整備	20	4.5%
⑧	若年（65歳未満）で発症する認知症に対する支援の充実	20	4.5%
⑨	認知症への正しい理解を広める啓発活動	19	4.3%
⑩	認知症の人が活動する場づくり、社会参加の支援	18	4.1%
⑪	子ども・学生が認知症の理解を深める機会の確保	10	2.3%
⑫	介護者同士が気軽に話や情報交換をする場所の整備、家族の交流会の開催	10	2.3%
⑬	認知症の人を支援するボランティアの養成	8	1.8%
⑭	認知症の人の意思決定や権利を守るための取組の情報提供や支援の充実	6	1.4%
⑮	その他	1	0.2%
合計		443	100.0%



その他の意見

・特になし

問13 その他、ご意見・ご要望等がございましたらご入力ください。

回	答
・	「若年性認知症（65歳未満で発症する認知症）」について、生活習慣病や社会とのつながりが関係していることをまったく知りませんでした。これからは認知症や若年性認知症に関する情報発信をお願いしたいです。
・	こういう時はこうする、こう言われたらこう返す、ズバリ教えてくれる人がいつも近くにいるといいかな
・	ちょっと心配な高齢者がいたら声掛けしたりして助けられる事は出来る範囲でやっていきたいです。
・	とても難しい問題で、自分がいつなるかもしれないし、若年でも、さまざまなことがきっかけで起こり得るかもしれない。ひととつながらない、人と話をする機会がない、そういう事で、発症するかもしれない。自分は、だいたいおとちとわからぬいし、もし、妻がなつたら？と考えると、とてもじゃないが、サポートすることができるのか心配である。子供もおらず、頼るものもない。有り余るお金があるわけでもない、そんな中で、施設を利用することすらできないのではないだろうか？ そうなつた時、生きるという選択ができるだろうか？ と考えてしまふ。
・	まだらボケとの判断が分かりにくい
・	アンケートを通じて、今は、身近に認知の人がいないので、気にしたことがなかつたが、実際に介護をする時が来た時に、どうすれば良いかわからないので、相談出来る窓口が、わかりやすい形であれば、ありがたいなと思つました。

・家族(祖母)が認知症だったのですが、自分で行動できなかつたので徘徊などはなく、家族の名前や顔だったり一致しない程度でした。介護施設に入居していたのでそこまで家族がケアするなどは出来なかつたのですが、関わり方で悪化することもあるという欄をみて衝撃を受けました汗 家族や身近な人の関わり方のお話を聞ける場があればありがたいなと思いました。認知症がある人の家族などは仕事や介護などで忙しい方ばかりなので、講座など出向くものでなく鹿屋市のLINEなどで聞けるのもいいなと思いました。

- ・介護制度が金額的には記載されているが、サービスを利用出来る回数などは、はっきり分からないし教えてくれない。
- ・地域内に気軽に入れる、体操したり、お茶飲みにできる場所があれば良いと思いますが、その場所までに行く手段が、難しいです！輝北は何処に行くにも難儀です。是非輝北に施設整備をして頂きたいです。(集合住宅)
- ・高齢者や認知の方が行方不明になり不公平な結果になる事が有りますのでは徘徊等心配な家庭にGPS等の利用をもっと案内して欲しい。
- ・最近認知症について 社会的理解も深まりつつありますが 以前 ご近所の方が 義母の言動でかなり 落ち込んでおられることがありましたね 義母が 着物を嫁に盗られた 隠された 等と ご近所にも言いふらし 大変なようでしたが 「これは認知症 被害妄想 幻覚」によるものだとご理解なさっていたらら 心労も和らいだとおもうのですが。
- ・色々な取り組みがあるなかで自分が知っているものが少なかった。もう少し認知症について、調べてみる必要があると思いました。また、もっとアピールも必要なのかなともおもいました。
- ・先日自宅に帰れなくなられた方が 悲しい結果になりました。

歩かれていらっしゃる方を見掛けても訓練されていない私たちは 声かけや見守り方など慣れていません。県内には しっかり取り組みをされている市町村もあると聞きます。取り組みは始まっているかも知れませんが 私達の目に耳に入ってきていません。うちも将来は分かりません。安心して老後を迎えたいものです。

・知らないことばかりで今回のアンケートで知るものばかりでした。啓発活動は町内会の回覧板やポスターなどだけではなくもっと身近に手に取れるもので深めていく方法がいいと考えます。

・中学校での道徳・保健体育・ホームルーム時間に、学生に彼らの親が将来、認知症になった場合を想定した授業が必要と思う。先ず頻繁に自分の近辺で起こりうることを認識または意識させる必要があり、現在認知症に詳しい専門の方(医師等)が状況をしっかり説明紹介することが大切。自分自身、親が認知症になるとは全く思っていなかった理由。

・認知症=こういうイメージ。としか考えていませんでしたが、実際に認知症に関する色々なサポートや活動がある事をこのアンケートで知りました。身近に認知症の方がいなくても知識を身につける機会はとても大事なことだなと感じました。

・認知症について知らないことが多かった。もっと宣伝してもいいのかなとおもいます

・認知症のことについてはなんとなくでしかわからないので、親が今後なるかもしれない、自分もなるかもしれないと思うともっと知識を増やした方がいいなと思いました。認知症を知る機会が増えるといいですね。

・認知症のことをもっともっと知ってもらいたい

・認知症のレベルにはよるが、無理に社会で役に立たせようとするのはやめた方がいいと思う。周りの負担は想像以上に大きい。認知症患者を支えるのもボランティアではなく、経済が回る形をとり、認知症患者も支える側も幸せになれる仕組みが必要。患者の周りの家族、親族も世間の目もあると思う。そこも考えた上で行政が認知症患者を支えるのがあたり前という市民のコンセンサスも必要。最終的にはどうするにもお金の問題になると思うので施設にお金を払う余裕の無い家庭をどうするか考える余地はある

・認知症の家族がいます。近所のお節介がありがたく、包括支援の事を教えてくれました。近くに、人となりを理解してくれる方が今は居て感謝しています。吾平総合支所の方も一生懸命してくださってますが、今後、吾平地域の職員が少なくなり土地名や、人となりなど分かっている人がいなくなるのが不安です。小学6年生の子ども達に住所を聞いても「わかりません」と答えが返ってきます。コロナ以降、地域の行事も減りました。お互いに心と心、顔を知る事。ふれあいの場がもっとあればと思います。

・認知症の患者さんが増えているが家族が認めたくないケースもまだまだあります。受け入れ先がなかなかなかったり、見守りがあれば生活ができるが独居で家族が遠方のために在宅での生活が厳しい人も多くいると感じています。鹿屋市でも色々なサービスや相談もあるがなかなかそこまでとりつけない人も多いように感じます。認知症に関して資格をとるなどして仕事に活かしていますが地域でどのように貢献していけばいいのかわかりません。今後、何らかの形で貢献していきたいと思います。

・認知症の事はほとんど知らないで普段から話を聴く機会があれば良いと思います。

・認知症の初期症状なのか単なる加齢に伴う物忘れなのか、その程度の議論しかされない。血圧や血糖値のように数値化されれば本人も自覚を持って行動できるのだろうが、加齢で仕方のないものと諦めて何もしない。家族も本人に危機感が無く、聞く耳を持たない状況でどうしていいのかわからないという現状です。相談窓口もあるということで、気軽に相談でき、具体的にどのように道筋を立てて進めていけばいいかわかりやすく説明していただけたらありがたいと思います。

・認知症の人が独り歩きをしても、誰でもわかるような目印があると良いです。

・認知症の入り口に立った人へのメンタル、自立支援、経済的、安心して働ける環境の支援。特に入り口に立った人は気付かない認めたくないがあると思います。気付くチャンスを手早く作って欲しい。「それなら窓口に来て下さい」のような対応にならないように配慮と注意をしてすしやすい町になって欲しい

・認知症の方を地域でサポートしようという話は聞いたことがありますが、そもそも地域の方々との関係が希薄で2軒先にどんな人が暮らしているのかもわかりません。

・認知症は祖父祖母とも診断されており、最期は孫の事も分からない様子でした。祖父は最終的に有料老人ホームで過ごし、時々ショートステイで帰っていましたが祖母の経済的負担や身体的な負担も大きかったようです。重度の認知症でも身体的に問題なければサービスが利用できず自宅で過ごす事も多いですが徘徊や易怒性などもあったりすると家族の負担が大きくなっていくと思います。家族が認知症になった場合、様々なサービスなど利用できるようになればもっとより良い社会になるのではと思います。

・認知症本人には、タイプに合った接し方を広め、介護する家族や介護士のケアも凄く大事。ストレスや過労によって、両者に良くない結果になる。入りやすい過労負担が一線を越えさせない手助けサービスを導入して欲しい。

- ・母親がアルツハイマーと診断されていますが診断時に言われたのは10年前から始まったと説明ありましたが、当時思ったのは早期診断早期治療ができてたらここまで進行することがなかったと今でも悔いが残ります。このため、かかりつけ医及び専門医が連携した仕掛け作りを早急をお願いしたい
- ・本人が認知症と思わないので病院の受診等を拒否して治療が難しく家族が困るケースを見てきた。そのような場合どうしたらいいかを相談できる窓口を例を例えて案内ポスター等有れば助けになると思う。家族の逃げ道も必要不可欠と思う
- ・民生委員、消防団等だけでなく自治会、町内会等で情報共有をし、見守りながら住み慣れた所で可能な限り暮らしていける様に取り組んでいく事が大事だと思います。